

市民の皆さんの意見・要望に答える

市長と語る市政懇談会



6月20日から8月3日にかけて、市内10中学校区11会場で、「市長と語る市政懇談会」が行われました。この懇談会は、市民の皆さんと市政について話し合う機会をつくることで、皆さんの率直な意見や要望を聞き、市政に対する信頼を深めていただくために開催しています。今回は、町内会長をはじめ女性代表、老人クラブなど地域の各種団体代表者約340人が出席した懇談会で話し合われた内容を抜粋して紹介します。

問合先

情報課広聴担当

行政

平

成23年4月1日に幡豆郡3町の一色町、吉良町、幡豆町と合併し、人口16万人超の新「西尾市」が誕生しました。それぞれの地域特性を生かした、どのようなまちづくりを目指しているか、お聞かせください。（西尾中学校区）

答

合併にあたり、新「西尾市」の目指すべき将来像を「自然と文化と人々がとけあい 心豊かに暮らせるまち」と決めました。

合併により、市は旧幡豆郡3町の豊かな自然、文化、産業など、新たな地域資源を得ることができました。これらを活用し、例えば吉良・幡豆地区では強固な地盤を生かした企業誘致を計画しています。また、観光地を結んだ観光ルートをつくり、交流人口の増加を図りたいと考えています。

具体的には、今年度と来年度にかけて、向こう10年間の新市の総合計画を策定していきますが、市民の皆さんの貴重なご意見、ご提案を反映するため、アンケート調査を行う際には、ご協力をお願いします。



組

織が大きくなればなるほど個々に目が届かなくなり、西尾市の末端まで目が届く行政をお願いします。（幡豆中学校区）

答

効率的な行財政運営を図るために合併をしましたが、市民の皆さんが「合併して良かった」と感じていただけることが、合併の最終目標であると考えています。職員には、現場へ必ず足を運ぶように伝えていきます。私自身、これからも現場へ足を運び、自分の目で確かめて、皆さんの声を聞きながら行政を進めたいと思います。市民の視点に立って、業務に当たるよう指導していきます。

防災

若

松町は伊文保育園が避難場所になっていますが、防災訓練に出席してみるととても多くの町内会が参加していました。伊文保育園のような小さな場所で大丈夫でしょうか。近くの総合福祉センターが緊急の避難場所になるか、避難場所への予定収容人数など、大災害が起きたときの対応を教えてください。

また、災害時の生活用水の確保に井戸水を活用したいので、採掘に補助をしてほしいです。（鶴城中学校区）

答

若松町は伊文保育園が地震災害時の避難場所として指定されており、園庭に避難していただくこととなります。なお、風水害時は八ツ面小学校が指定避難所となり、3580人が収容可能です。また、総合福祉センターも水害時の避難所として定めていますので、緊急時には避難することが可能です。災害によって避難所を開設する際には、市職員を派遣し、その運営を担います。

飲み水は3日分は各個人で確保していただきたいです。3日たてば、支援が来ると思います。井戸の補助については検討します。

地震の避難場所は屋外の園庭や広場を指定しています。地震の揺れが収まるまでそこにいてください。八ツ面小学校の方が近い人は、融通性を持って避難してください。

先

の東日本大震災で住民は大きな不安を抱えています。安全なまちづくりの見直しをお願いします。

（一色中学校区／関連質問：鶴城、西尾、福地、東部中学校区）



答

今回の大震災で国もいろいろな計画を見直そうとしています。

合

併前に幡豆郡3町で鳴っていた正午のサイレンは、農業や漁業などの仕事に従事している人たちにとって、とても大切な合図です。復活を望みます。（一色中学校区／関連質問：吉良、幡豆中学校区）



緊急情報を伝える同報無線

答

昼のサイレンですが、合併前の協議の結果、廃止をさせていただきますました。消防が鳴らしていたサイレンは、消防無線の電波を使用して遠隔操作をしていたため、毎日のサイレン時に一時的に

全ての消防無線の使用を中断する必要があり、本来の消防業務に支障をきたしていました。

また、同報無線の取り扱いについても、合併協議の中で「一般放送のチャームは、現行のとおりとし、放送内容については、原則として、生命・財産にかかる緊急情報とする」ことで合意しています。屋のサイレンがなくなると違和感があるかもしれませんが、慣れていただきたいと思えます。

海

岸堤防の耐震化について伺います。東日本大震災の大津波はテレビで何度見ても身の毛がよだちます。市から、旧西尾市にある堤防全長13・7kmのうち、耐震化になっているのは14%と聞きました。86%が普造ったままの堤防です。

地震専門家は、南海沖、東南海沖、東海沖で地震が連動して起きる可能性が大きいと言っています。津波は地震がもたらされます。西尾市の堤防はほとんどが砂地で液状化現象が起きやすく、津波が防げないのではと心配です。寺津地区は、海抜0m地域に住んでいる人がたくさんいます。1日でも早く耐震化堤防にしてください。(寺津中学校区)

答

現在、寺津海岸において、県により耐震工事を進めています。

県では、海抜0m地帯で家屋が建ち並んでいるなど大きな被害が想定される区間を優先対策区間と位置付け、「あいちアクションプラン」の取り組みとして、平成26年度末までには、優先対策区間の耐震化率100%を目標に事業を進めていると聞いています。

この寺津海岸はアクションプランに位置付けられていて、市としても防災対策上、一刻も早く整備が進むよう県当局へ働きかけをしていきます。



耐震工事が進む寺津海岸

交通

日福地駅を利用してはいますが、朝9時ごろ自転車で行きますと、駐輪場はいっぱい自転車置き場が拡充していただきたいです。(福地中学校区)

答

名鉄福地駅前自転車駐輪場は、年々、利用者が増え、ご指摘のとおり満杯状態であることは承知しています。そのため、今年度

に、約40台分の増設を計画しており、10月ごろから工事に入り、年末には使用できるよう進めています。

なお、名鉄西尾・蒲郡線は、存続問題に揺れています。地域の活性化のために、また、学生や子ども、高齢者など交通弱者のため、なくしてはならない路線です。残していくには、多くの皆さんに利用していただくことが肝心ですので、今後も名鉄電車をご利用くださいようお願いいたします。



駐輪場の増設を行う予定の名鉄福地駅

新

「西尾市」は海あり山ありと非常に自然に恵まれています。自動車関連を中心とした産業や全国的に有名な特産品に支えられ、バランスのとれた発展をしていると思えます。

しかし、周辺の市と比べ西尾市は高速道路へのアクセスが不便で陸の孤島に近いと感じています。高速道路網へのアクセス道路は将来の西尾市の発展にとって非常に

重要だと思えます。(平坂中学校区)

答

市周辺の高速道路は、東名高速道路、伊勢湾岸自動車道があります。

東名高速道路へは、衣浦岡崎線を利用して岡崎インターへ、国道23号を利用して音羽蒲郡インターへアクセスする方法が考えられます。伊勢湾岸自動車道へは、国道23号を利用して豊明インターへ、国道247号と知多半島道路を利用して大府インターへアクセスする方法が考えられます。いずれも国・県道を利用するためのアクセスとなります。

各路線の整備状況ですが、国道23号は、平成24年度末に安城の藤井インターまで4車線化されると聞いています。

衣浦岡崎線は、現在、県において岡崎市内で一部整備中で早期供用開始を目指して工事が進んでいます。

国道247号では、寺津大明神の交差点より碧南側について、4車線化が完了しており、知多半島道路へのアクセスが容易になったと考えています。

ご指摘のとおり、高速道路へのアクセスは、市の発展に重要な役割を果たすと考えられます。未整備区間は、早期整備を関係機関へ要望していきます。

交

通機関の不便なところや老人の通院などを配慮して、旧幡豆郡3町にも早くくるりんバス路線の新設をお願いします。（吉良中学校区／関連質問：一色、佐久島、鶴城、寺津、福地中学校区）

答

くるりんバスを含め、市における公共交通体系は、地域公共交通会議で各種交通機関が役割を明確にしながら共存を図るため、さまざまな協議をしています。

23年度のくるりんバスの路線については現行のままと考えていますが、24年度以降については、今年度開催する地域公共交通会議の中で、旧幡豆郡3町への対応も含め、地域の交通資源の有効な活用を図りながら、どの地域にどのような交通手段が必要かなど総合的な交通施策の検討を進める必要があると考えています。

地域振興

島

ではおよそ10

年前から過疎化が激しくなり、行政に相談し、支援を受け、現代アートを取り入れた事業を起し、活性化を図りました。



2、3年前から事業が実り、たくさんの人が来てくれるようになりました。現代アート事業を中長期なものとして、せめて5か年計画で予算面を考えていただきたいです。（佐久島中学校区）

答

島民の皆さんのさまざまな取り組みやマスコミの取材などにより佐久島の観光客が増加していることは市にとって大変ありがたいことだと思えます。

また、佐久島は市の重要な観光資源という認識も持っています。そのために佐久島活性化事業補助金や地域活性化プロジェクト事業とホームページ更新業務を委託しています。引き続き予算の確保に努めていきます。

まちづくりは予算も必要ですが、基本的には人がつくくるものだと考えていますので、今後ともご理解とご協力をお願いします。



空から見た佐久島

生活

私

の町内では、結婚していない成年の方などが徐々に増えてきています。その方の両親も高齢になっており、このまま結婚できないのではと心配しています。対策はありますか。

また、子育て対策についてもお聞きしたいです。（福地中学校区）

答

結婚チャンスの増大について、農林水産課が支援する4Hクラブでは、毎年「農業体験ツアー」または「タッチ・ザ・アグリ」と銘打って、婚活イベントを展開しています。また、社会福祉協議会では、結婚の相談・紹介を実施していますので、ご活用いただきたいと思います。

行政としても、若い世代が安心して子どもを産み育てられるようなまちづくりが必要だと考えています。

子育て対策では、平成22年3月に「西尾市次世代育成支援後期行動計画」を策定して、計画的に子育て支援と少子化問題に対する対策を推進するため、市を挙げて取り組んでいます。

基本理念を「にっこり しあわせ おとももいっしょに育つまち にしお」と定め、こんにちは赤ちゃん訪問、地域子育て

支援センターの充実、児童クラブの早期保育の実施、スクールカウンセラーなど相談体制の充実など118の事業に取り組んでいます。各ふれあいセンターに計画書を配置しており、また、市ホームページにも掲載していますので、ぜひ一度ご覧いただき、ご意見をお願いします。



多くの親子が集まる子育て支援センターふくなん

人暮らしになっても安心した生活ができるような、充実したまちづくりについての対策はどのようになっていますか。

元気な高齢者の活躍の場づくりとして、公共施設の受付業務をはじめとする生涯現役で活動できるような場づくり対策を検討してください。（平坂中学校区／関連質問：西尾中学校区）

一人暮らしの方など高齢者が安心して生活ができるように、民生委員さんや地域包括支援センター職員により、緊急連絡先などを記載してもらおうシルバーカード調査などを実施し、見守りの充実に努めています。

また、高齢者の方の自発的な活動および交流の場の提供としては、市内に高齢者交流広場を旧西尾市内6か所、旧一色町内1か所の計7か所設置し、平坂校区には平坂ことぶき会館があります。

元気な高齢者の方の活躍の場の提供については、公共施設などでは現在ありませんが、シルバー人材センターへの登録により、長年培った経験を生かして活躍いただければと考えています。



高齢者の交流の場 平坂ことぶき会館

社会教育

各 地にはふれあいセンターがあり、市民の憩いの場所として有意義に利用されています。22年度までは施設を無料で使用していましたが、23年度から有料になりました。

地域で明るく楽しくふれあう場所です。負担のないセンターとして利用できるように、使用料金の撤廃をお願いします。（鶴城中学校区／関連質問：吉良中学校区）

答 ふれあいセンターの使用料は、文化会館や総合体育館などを利用される方と同様に受益者負担の原則や利用者間の公平性を保つため、使用料を負担していただくこととしました。

使用料の撤廃は考えていませんので、ご理解をお願いします。



鶴城ふれあいセンター

4 月に市から、次年度より校区社会教育推進委員会の廃止を通告されましたが、学校と家庭・地域を結ぶ校区社会教育の要としての社会教育推進委員会は必要であると思っています。

社会教育推進委員会に替えて校区コミュニティをつくってほしいとのことですが、どのようなものでしょうか。（東部中学校区／関連質問：鶴城中学校区）

答 社会教育事業の委託料は廃止をさせていただきますが、校区の社会教育推進委員会は、地域の自主的な組織です。校区で必要となる連絡・調整会議などについては、これまでどおり自主的に活動していただきたいと思っています。

社会教育推進委員会は、地域において、大人や青少年、子どもたちが交流し、食育について学んだり、健康や命の大切さを話し合ったりするなど、具体的な活動を含め幅広い事業を推進していくために活動する組織です。

一方、校区コミュニティ推進協議会は、地域の連携や課題の解決、市民と行政の協働による地域づくりを推進していくために活動する組織です。これらの趣旨を踏まえても、社会教育推進委員会と校区コミュニティ推進協議会は共存できるものと考えています。

コミュニティは地区の親睦の基

盤であり、行政にとっても協働の有力なパートナーとして期待をしています。コミュニティを設立することによって、地域社会で安心して住める雰囲気づくりなどにつながるものと考えています。それぞれの町内会にご理解いただき、校区での設立を推進していきます。



市政懇談会の様子